

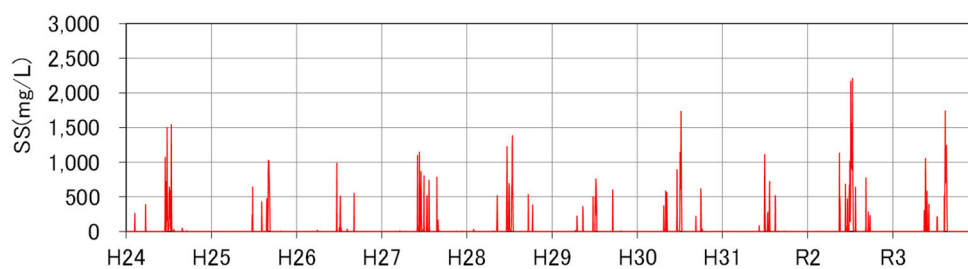
Q24. ダムができることで球磨川・川辺川の濁りが長期化しないでしょうか。

- 水質の指標については、SS や濁度、透視度、水平透明度等のように目に見える汚れを表す指標と、BOD や COD のように目に見えない汚れを表す指標があります。
- 川辺川の流水型ダムにおける環境影響評価においては、水の濁りについて SS（粒径 2 mm 以下の水に溶けない懸濁性の物質）を使って、過去 10 年間（平成 24 年～令和 3 年）の流況を対象にダム建設前とダム建設後でシミュレーションを行い、環境影響評価に関する主務省令や他ダムの事例に基づき、水質汚濁に係る環境基準値 25mg/L を超過する日数を比較し評価を行っています。
- 試験湛水時の濁りについては、ダム建設前とダム建設後と比較すると、貯水位上昇時に濁度が高い洪水（平成 24 年～令和 3 年の 10 年間の内 2 か年）を貯めた場合、ダム下流河川において、SS の環境基準値を超過する日数はダム建設前と比べダム建設後は増加すると予測しました。
- そのため、環境保全措置として、「貯水位下降速度を遅くする」、「表層取水」、「濁水の一時貯水」を実施することにより、ダム建設前と比べ同程度となることを確認しています。
- ダム供用後の濁りについては、ダム建設前とダム建設後と比較すると、SS の環境基準値を超過する日数は同じであると予測しています（但し、洪水末期の SS については、ダム建設後は大きくなる傾向が見られます）。
- このように、環境影響評価としては環境基準値を超過する日数で比較しているものであり、環境基準値を超過しない日が全て 25mg/L になるという意味ではなく、洪水調節終了後や洪水がない平常時は、ダム建設前と同様に SS は 25mg/L より小さい値となります。

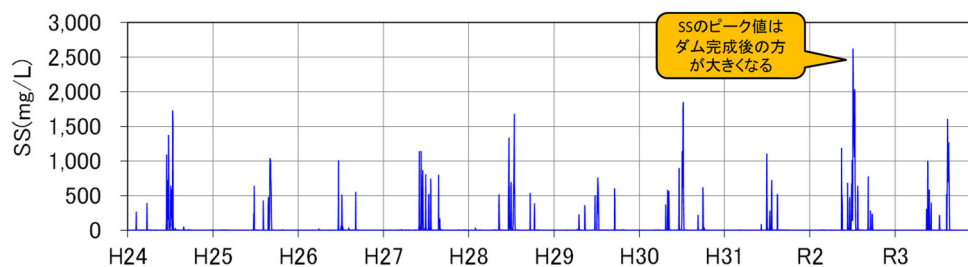
- ただし、洪水調節後にダム洪水調節地内の平地部にシルト成分が堆積し、その後の降雨によりシルト成分が河川に流出し濁りが発生する可能性があるため、排水路整備など濁り成分の流出防止対策を行います。更に、シルト成分の堆積を抑制させるための平場の嵩上げや形状等を検討し、濁りを抑える更なる対策を行うこととしています。
- 引き続き、ダム建設に伴う変化をモニタリングし、関係機関や地域の皆さまと連携しながらダム完成後も河川環境の保全に努めてまいります。

<参考>ダム建設前後の濁りの予測結果について
 ・ダム建設前後におけるSSピーク値の比較

ダム建設前（柳瀬地点）

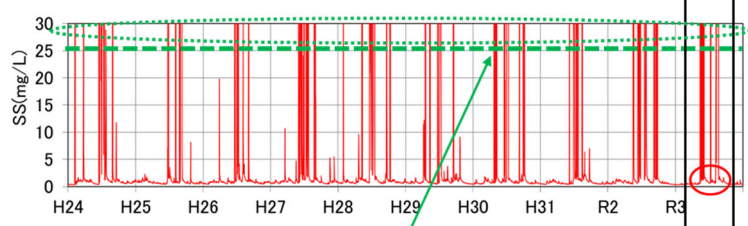


ダム建設後（柳瀬地点）

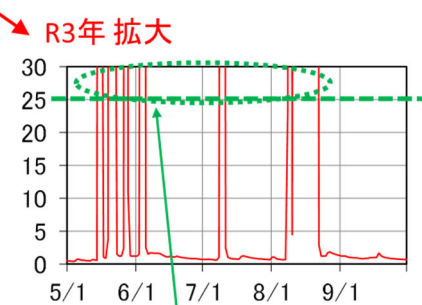


・ダム建設前後における基準値（SS25mg/L）の超過日数の比較

ダム建設前（柳瀬地点）

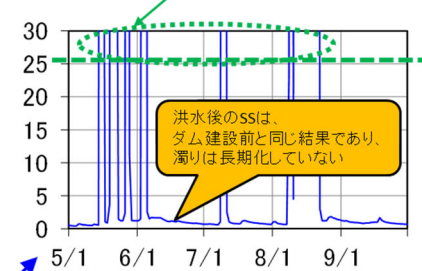
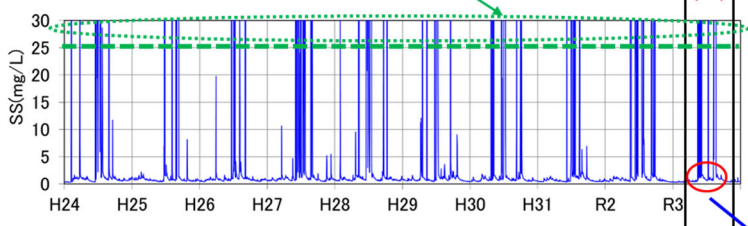


25mg/Lを超える日数は変わらない



25mg/Lを超える日数は変わらない

ダム建設後（柳瀬地点）



※SS25mg/L より小さい値の範囲を拡大するため、縦軸は SS30mg/L としている。